

# 宿泊介護体験が脳卒中患者の家族介護力に及ぼす影響 第1報

○小田中 千代, 福田 真由, 古川 琴巳, 阿曾 光子, 近藤 由美 (兵庫県立リハビリテーション西播磨病院), 大塚 眞代 (関西福祉大学)

## I. はじめに

脳卒中は介護を必要とする主な原因疾患であり、高齢者社会においては在宅退院の困難性、家族の介護負担、医療費の増大など社会的問題の要因となっている<sup>1)</sup>。そのため、脳卒中医療を担う施設には、患者、家族が退院後の生活を円滑に送るための支援が求められている。特に在宅退院の場合、患者のADLや家族の介護力を判断しながら、多職種間で連携し計画的に行う必要がある。

A病棟は脳卒中後遺症を伴う患者が8割を占める回復期リハビリテーション病棟である。退院支援の一環として、①面会時の介護指導 ②ADL室宿泊介護体験 ③試験外泊を組み合わせた介護指導を行っている。今回、効果的な退院支援を検討するため、宿泊介護体験が家族介護力に及ぼす影響を明らかにすることを目的に研究を行った。

## II. 研究方法

1. 研究デザイン：事例研究

2. 対象：2019年5月～8月にADL室で宿泊介護体験をした在宅退院予定患者の介護者4名

3. データ収集方法：宿泊体験前後、個別に半構造的面接法を実施した。質問内容は家族介護力評価表<sup>2)</sup>「介護時間」「意欲」「判断力・理解力」「介護実行力」「健康状態」「家族関係」「社会資源活用意欲」「経済面」「住宅の構造」「同居者以外の家族関係」の10項目で、各5段階評価基準に沿って詳細に聞いた。

4. 分析方法

宿泊体験前後の家族介護力の変化は評価ポイントで比較した。評価ポイントは点数が高い程介護力が高いと評定されており、インタビューが判断した。家族介護力に影響した要因はインタビュー内容から分析した。

## III. 倫理的配慮

本研究は兵庫県立リハビリテーション西播磨病院倫理委員会の承認を得て行った。

## IV. 結果・考察

退院を直前に控え、介護の把握と練習を目的に体験した介護者2名は、宿泊体験前後で「判断力・理解力」「介護実行力」のポイントが上がった。ADL状況の理解の深まり、夜間の排泄介助への自信、在宅生活のイメージを持てたことが影響要因と考えられた。1名は「社会資源活用意欲」のポイントも上がり、社会資源の活用を再検討する機会になっていた。

患者の介護量が多く、現状の把握と退院後の方向性を確認する目的で行った2名の介護者は、「判断力・理解力」のポイントが上がり、うち1名は「介護実行力」のポイントも上がった。高次脳機能障害や夜間の様子の把握ができたこと、看護師の関りが影響要因であることがわかった。介護の大変さを実感する機会であったが、体験前後の「意欲」のポイントに変化はなかった。介護者の在宅退院へ対する思いの強さや、療養過程で獲得した介護に対する認識が関係していることが推察された。

## V. 結論

宿泊介護体験は、主に家族介護力の「判断力・理解力」「介護実行力」に影響を与えていた。

## VI. 文献

- 1) 平成26年度 国民医療費の概況, 厚生労働省 <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-iryohi/14/>
- 2) 松本泰子 他:在宅介護に向けた家族介護力評価表の検討, 第30回日本看護学会論文集(地域看護), P38-42, 1999.